

平成28年度事業報告書

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会

2017年3月発行

1. 目的

我が国の都市部を除くあらゆる地域において少子高齢化や労働人口流出により、独居や単一世代のみの世帯が増加した。これに伴い世代間での共助や相互扶助の精神、あるいはその実践が著しく低減化し、地域における雰囲気や暗さや不安を拡大させている。経済状況の好転や雇用創出による人口増を待つばかりではなく、地域に暮らす者にとっての安心感を醸成するためには住民相互の信頼感や一体感を高めることが喫緊の課題と考えられる。この解決にあたっては、これから社会を担う子供達ばかりではなく、周囲で起居する大人達も、経済的な価値だけではなく、地域の自然の豊かさを体感することなどで郷土意識を育み、多様な価値観を共有あるいは認め合うことが重要である。そこで広がりをもったご近所付き合いの復活と世代間の交流、共助を推進することを目指して、帯広川の水辺を学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用する。特に、自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく、個々人の日常的な行動が大きく影響することを理解して自助・共助の精神や行動を活発化させる。

2. 計画

勉強会は広く市民に公開するが、体験学習等の水辺での支援活動では、子供の世話をする大人の人数や用具数の制約から1回最大35名程度で実施する。主な実施場所は、勉強会等では公共の施設である西十号会館で、体験学習では河川敷公園付近の帯広川で実施する。実施にあたっては、NPO、民間企業、子どもの水辺北海道地域拠点センター等の協力を得、さらに北海道十勝総合振興局帯広建設管理部事業室治水課、帯広市の都市建設部管理課、市民活動部市民活動推進課および教育委員会にはご指導を頂くとともに要に応じて報告を行う。勉強会および体験学習等は下記の通り計画した。

2.1 勉強会

- ① 易しく学ぶ水の検査（3世代；親子孫の世代を表す）
- ② 河川管理の仕組み ― 私たちが出来ることとは ―（親子世代）
- ③ 水棲生物を知る（3世代）
- ④ 水道水ができるまで（3世代）
- ⑤ 水資源の危機とは（親子世代）

2.2 体験学習

- ① 易しく学ぶ水の検査（3世代）
- ② 水棲生物を知る（3世代）
- ③ 帯広川を流れてみる（孫世代）
- ④ 帯広川をきれいにする（3世代）
- ⑤ 成果発表会（3世代）

2.3 役員会

拡大役員会を含めて毎月開催し、帯広川の環境や安全等について検討する。さらに年次・人材育成計画の管理と評価および中長期計画の策定等を行う。

2.4 親睦会

各種団体との連携方策の検討および親睦を図るために、年2回開催する。

2.5 広報

個別事業の案内等は、ホームページを活用するが、報道機関にも協力を求め、さらに町内会等のネットワークを有効活用する。年度末には事業報告書を作成し、関係者および機関へ配布する。

3. 実績

平成28年度は、学校教育支援12回、勉強会等7回、河川活動として水質・生物調査、河川清掃、河川環境保全などを行い、延1,438名（他組織主催事業も含む）が参加した。

帯広川における教育支援活動は、小学校が現有するヘルメットとライフベストを活用して最大45名の児童に対して行った。

勉強会においては、毎年、帯広川で採取した生き物を試食することにより、食や生物学に関わる知識を向上させるとともに、地域の自然の豊かさを体感することなどから郷土愛を育み、さらに先人の知恵を学ぶ好機として継続・企画している。このため本年度も、野セリと駆除したウチダザリガニを安全性を確認した後に子供を含む希望者で試食した。

今年度の事業実績を時系列で示したのが表3.1である。

3.1 学校教育（水辺体験学習）支援

本年は保育園等幼児1組、幼稚園園児2組、開西小学校児童5学年5組、地域イベントの参加児童等2組、合計10組の教育支援を主として帯広川で実施した。帯広川での延べ参加人数は、園児・児童342名、大人286名であった。

小学3年生以下では、川に親しむことと同時に川に内在する危険を理解、体感できるよう支援を行い、これ以上の高学年では、水棲生物の観察や川の水質との関係などの学習支援を行うとともに自らが暮らす地域の自然の豊かさを認識するように努めた。また、教員等の大人に対しては帯広川の水質の特性や生息する生物、特にウチダザリガニやブラウントラウトの外来生物、漁業権が設定されているサケ、ヤマメについての知見を教示した。

帯広川での水辺体験学習支援

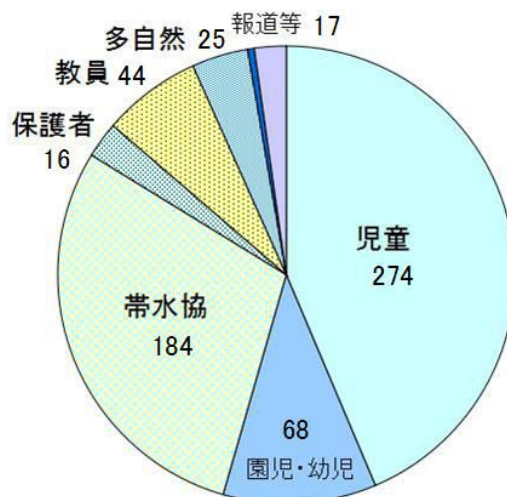
- ① サケ稚魚放流 4月09日(土) 子供8、大人9名 (写真1)
- ② 開西小学校2年生 7月04日(月) 子供37、大人25名 (写真2)
- ③ 開西小学校1年生 7月05日(火) 子供33、大人22名 (写真3)
- ④ 開西小学校5年生 7月08日(金) 子供45、大人31名 (写真4)

ただし、JICA研修生は、児童とともに帯広川体験学習に参加した。

- ⑤ 帯広幼稚園ゆき組 7月12日(火) 子供42、大人20名
- ⑥ 帯広幼稚園ほし組 7月13日(水) 子供45、大人23名
- ⑦ 開西小学校4年生 7月14日(木) 子供18、大人27名 (写真5)
- ⑧ 開西小学校3年生 7月20日(水) 子供18、大人27名 (写真6)
- ⑨ つばさ保育園 7月21日(木) 子供18、大人27名 (写真7)
- ⑩ 相馬市小学生 7月31日(日) 子供18、大人37名 (写真8)
- ⑪ 西帯地区児童 8月03日(水) 子供32、大人43名 (写真9)
- ⑫ トムテのいえ保育所 8月27日(土) 雨天中止

帯広川で実施した教育支援は、ほぼ例年通りに開西小学校を主として行った。⑫トムテのいえ保育所は、例年、支援が土曜日に限定され、さらに今年度は雨天延期が3回続いたので中止とした。⑩昨年から行っている相馬市児童に対する支援は、星槎国際高等学校帯広キャンパスが2012年から行っている東日本大震災復興支援活動の一環として依頼されたものである。⑪西帯地区児童は、4小学校校区の生涯学習推進委員会が合同で主催したものである。

右図は、帯広川での教育支援の参加者の内訳とその延べ人数を表したものである。児童・園児342名に対して286名の大人が支援した。



他河川での水辺体験学習支援

①音更川：環境学習会「アクアソーシャルフェス」
概要：7月9日(土)10時から音更川水辺の楽校で開催。子供62、大人51名が参加した。帯広大谷短期大学主催、トヨタ・北海道新聞・弊会後援。水棲生物調査、河川敷清掃およびやまべ放流を行った。弊会からはライフジャケット等の水棲生物の調査用具を貸出するとともに7名が参加して川での生物調査の支援を行った。また、学習会終了後に行った懇談会では、他組織、大谷短大の学生・教員、トヨタ自動車販売店および北海道新聞社関係の方々と環境教育等について意見交換を行った。



その他

・開西小学校におけるサケ稚魚の飼育支援（10月22日から）

さけ・ます増殖事業協会から供与された親サケから採卵、人工授精、孵化させたサケの稚魚を開西小学校で飼育、展示した。月に2回程度、観察を行うとともに水槽等の管理を行い、さらに小学校からの要請に応じて問題の処理にあたった。



3.2 勉強会等

①体験学習「サケの稚魚放流会」

4月9日（土）13時から、開西小学校および西21新興町内会との共催。13:00 開西小学校→14:00 帯広川河畔で学習・放流会を行った。子供11、大人23名が参加した。開西小学校において水槽内で体長約5cmに成長したサケの稚魚を観察。サケの生態や水棲生物にとって山や岸辺の植物等が物質循環の中で重要な役割を果たすことなどを説明した後に、稚魚を水槽から移動用コンテナへ移して帯広川まで運搬し、参加者全員でサケの稚魚を帯広川に放流した。



②体験学習「第16回クリーンウォークとかち in 札内川」

5月14日（土）10時から（札内川、5名参加）

概要：クリーンウォークとかち実行委員会主催。河川愛護の啓発と実践を目的として企業、団体等が実行委を組織して毎年開催している。個人、団体で744名、弊協議会からは5名が参加した。ラジオ体操を行った後、班に分かれて川沿い約2Kmを歩きながら、吸殻、空缶、プラスチックゴミ等を集めた。また、不法投棄されたタイヤ、電化製品、家具などの大型ゴミも可能な範囲で片付けた。昼食を兼ねた懇談会では、ジギスカン鍋を囲みながら河川管理者、建設・土木企業、金融機関、NPO等と十勝の河川に関する現状や課題について意見交換を行うとともに、相互理解を深めた。



③体験学習「パックテストによる帯広川の水質検査」

7月8日（金）13時15分から（開西小学校理科実験室、5年生43名、大人15名）

開西小学校5年生とJICA研修生（8名）との共同実習。

開西小学校の授業の一環として、帯広川の水質をCODとpHについてパックテストを用いて調査した。パックテストは、河川水、排水あるいは飲料水などの簡易検査に利用されている市販の検査キットで、操作が容易なために児童・生徒や一般社会人が行う環境学習や環境モニタリングに広く利用されている。なお、全国河川一斉水質調査においてもCODのパックテストが行われている。

一般に河川の水質調査においては水棲生物による推定調査が良く行われる。これは水棲生物叢が一定程度の長期間の環境を反映するからである。一方、バックテストなどの科学的測定は、採水時の水質のみが分析されるので結果の判断にあたっては考慮する必要がある。なお、今回は、午前中に、西 22 条付近の帯広川において生物調査を行ったので、バックテストの結果と合わせて水質について考察することが望まれた。

帯広川の水質に関しては、今回の COD と pH の測定結果から、川周辺に起居する方々および児童の印象通り問題となるような汚染はないものと推定された。帯広川の水棲生物では、魚類でフクドジョウ、ヤマメ、ウグイ、虹鱒、ブラウントラウト（ここまでの遭遇頻度は高い）、イトヨ、ヤツメウナギ、ハナカジカ（低い）や昆虫ではカゲロウ、トビケラ、カワゲラ類が常時に観察できるので、国交省監修の資料によれば「きれいな川」あるいは「少しきたない川」に相当する。

児童の感想等から帯広川には多様な生物が生息していること、比較的水質がきれいであること、川には危険が内在することなどを理解している様相が知れた。今後は、川の学習を契機として自然への関心を高め、その特徴や地域性の理解あるいは自然を保全することと人の活動との関係などについて考えてもらいたいと願っている。

今回は、弊協議会が開西小学校 5 年生の授業時間をお借りして地元の自然を再確認する活動の一環として帯広川の水質検査実習を、川の環境保全等について学んでいる JICA 研修生とともに行ったものである。児童 4～5 名に大人 1 名（研修生 8 名と関係者数名）が加わり実習作業を行ったが、児童は外国人に臆することなく英語や身振り等で意思疎通を図り、大人が心配していたコミュニケーションに関する混乱はなかった。また、各班に大人が補助したので実習の進行にも混乱はなく、少人数教育の効果が高いものと思われた。



⑤講演「Community improvement of residents, for the residents, by the residents - 住民による住民のための街づくり - 」

7 月 8 日（金）9 時から（JICA 研修センター、JICA 研修生 8 名、大人 4 名）

概要：日本人は、あらゆる組織において専門性の高い仕事に習熟することで、効率的な社会を実現し高品質で比較的廉価なものを大量生産してきた。その結果、普段あまり使わない物、例えば過度にマニアックな製品や、全国津々浦々の舗装道路、過疎地のビルや空港といったものを増加させて非常に非効率で費用対効果の悪い社会になってしまった。そこで、自分が暮らす地域、例えば町内会などの小さな単位で合意形成を行い、自らが考え判断して自己責任において合意形成を行う社会へと変革することが必要と考えられる。ただし、地域住民が行う公的な取り組みでは、つらいことや楽しくないことは継続し得ない。そこで水辺の活動を紹介しながら新たな公共について議論を行った。



⑥サケ人工孵化体験会 （写真 10、報道 2）

弊会・開西小学校共催、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会（増殖協）の後援で、10月22日（土）午前10時から開西小学校で行われた。開西小児童等9名、大人14名（教員2名を含む）が参加した。元さけ・ますセンター帯広所長の石垣章さんがサケの受精の仕組みなどを解説した後、子供達にサケの魚体に触れさせた。次いで、メスから卵子をボールに取り出して精子を振りかけ、子供達全員で静かに手で混ぜさせてから帯広川の水を少し入れて受精を完了させ、直ちに受精卵を開西小学校に設置した水槽に入れた。



サケの内臓等についての説明では、子供達は積極的に心臓や肝臓あるいはエラ等に触れながら質問をしていた。親サケの身は、希望者でチャンチャン焼をして、感謝しながら戴いた。開西小学校の無江教頭は、「小学校単独で、このような体験会を行うのは困難だが、増殖協などの協力によって可能となった。生物の学習でインパクトのある良い体験ができた」、また菅原校長は「今回の体験会のように地域社会が子供の教育に関わって頂くことの意義は深い。多様な専門性を持つ方々が初等教育においても活躍して頂きたい」と語った。生涯学習の重要性が叫ばれてから久しいが、今回のような活動は異なった多様な世代における経験や認識を共有することによって、明るい地域づくりに繋がる良い契機と考えられた。

⑦特別学習会「帯広川氾濫！ 避難訓練と対策」（報道 3）

8月5日（金）15時から （於；西十号会館、大人43名参加）

弊会・西21新興町内会（新寿会）主催。

避難訓練における想定：前夜からの大雨により帯広川が増水して氾濫（洪水）の可能性が増大。さらに雨脚が弱くなる気配はない。

訓練の概要：自主的避難について検討するために防災担当者等が西十号会館（一時避難所）に集合して検討を行い、一般家庭では垂直避難で対応可能だが、老人世帯等の災害時要援護者は現状把握が行われていない可能性があるため、個別に連絡を取り一時避難所へ集合した。要援護者2名の安否が不明なので車で迎えに行き到着までの時間や順路、危険箇所等について把握した。

講評と講演：訓練後に帯広開発建設部治水課長、十勝川中流部市民協働会議、伊豆倉組などの治水・防災に関わる専門家から講評を頂くとともに日頃からの対策について解説を頂いた。

3.3 河川活動

河川活動は、学校教育支援等の実施場所である帯広市西21条南2丁目付近の帯広川右岸約1.5kmを中心として行った。なお、他組織が主催する行事等においては十勝管内の十勝川や札内川の本流および支流で清掃活動等を実施した。

① 水質・生物調査

- ・ 帯広川分流堰付近を観測地点として「濁り」と「臭い」を官能的に評価し、あわせて川の水面の写真撮影を行った。なお、水質に問題があると判断された際には、簡易水質検査（パックテスト）を行った。その結果、4月下旬から1月まで、数回、一過性で水質の悪化が認めら

れた。河川管理者（北海道）に通知するとともに関係機関（帯広市、報道機関）へ水質改善に関する取り組みの推進を要望した。（写真 11）

- ・ 4 月から 11 月上旬まで生物の生息調査を行ない、魚類では、ドジョウ、ウグイ、イトヨ、ヤマメ、虹鱒、ブラウントラウトの生息が確認された。なお、本年はウチダザリガニ約 100 匹、ブラウントラウト 14 尾を駆除した。（写真 12）

② 河川清掃

- ・ 帯広市河川一斉清掃（5 月 10 日）に呼応して西 21 新興町内会とともに帯広川で実施した（右写真）。
- ・ 十勝川および札内川のゴミ拾い清掃に参加した。
- ・ 弊協議会役員による定期的なゴミ拾いは、月 2 回を基本とし、4 月から 11 月までの間に計 23 回実施した。



③ 河川環境整備

帯広川および河川敷公園（西 21 条南 2 丁目）北側の排出口周辺部の親水広場の整備を行った。6 月 5 日から 11 月 6 日までの間に 7 回、延 41 名が行った。なお、この排出口周辺の環境整備は、今年度も北海道市民団体協働の川づくり事業に認定された。

- ・ 帯広川堤防天端通路において散歩をする歩行者の危険防止のために、倒木や棘を有する雑木（ニセアカシア）の除去を 3 回、延 17 名で実施した。
- ・ 「エコな地域づくりの会」と連携して河川敷公園（ちびっこ広場、西 21 条南 2 丁目）付近の環境整備で排出された刈草、枯葉等の堆肥化を実施した（継続）。

3.4 会議等

①役員会：会長、副会長、事務局長、会計および事務局次長等による役員会を原則月 1 回開催し弊協議会の運営や帯広川での課題等について検討した。今年度は 14 回行った。

②事業および会計監査：4 月 21 日（木）午後 3 時から西十号会館で開催。平成 27 年度の事業および会計について監査を行った。さらに今年度の事業および会計計画案について検討した。

③総会・特別講演会（写真 13）：5 月 6 日（金）午後 6 時から西十号会館で開催し、平成 27 年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計、役員案等を審議した。その結果、全てが提案どおりに承認された。なお、総会の議題等について検討するために拡大役員会を 4 月 21 日に行った。また、今年度の学校教育支援について幼稚園および小学校からの要望を受け、実施原案を役員会で作製することとした。総会終了後に以下の演題で特別講演会を開催した。

1. 帯広川の洪水対策について ARC Co. 統括部長 和田 哲也 氏
2. 洪水対策としての保険制度 三井生命釧路支社営業部長 上野 暢之 氏
3. 洪水避難のための具体的な対策の提案 榎伊豆倉組 伊豆倉 米郎 氏

弊会運営委員の他に、北海道開発局および十勝総合振興局の治水関係者や一般の方が参加、帯広川の洪水や防災について議論を深めた。

④懇談会：協議会運営委員相互および協力を頂いている組織・団体の方々との情報交換および親睦を図るために 5 回実施した。この他、他組織主催の懇談会にも積極的に参加した。

- ・ 4 月 21 日、監査終了後に開催。総会の議題、進行等を検討した。
- ・ 5 月 06 日、総会終了後に開催。今後の事業や財務について意見交換を行った。
- ・ 8 月 03 日、特別講演会終了後に開催。NPO、講師および一般の方を含めて水害対策について意見交換を行った。
- ・ 9 月 13 日、今年度の帯広川での教育支援活動が終了したので、NPO 等の参加者とともに教育支援での問題点について意見交換を行うために開催した。
- ・ 12 月 18 日、本年の課題と来年の取り組みについて意見交換を行った。

3.5 その他

- ・ 全国水環境マップ実行委員会主管の水質検査を 6 月 10 日に実施、報告した（継続）。
- ・ ウチダザリガニを防除するための「かごによる採捕許可」を環境省が認定（～平成 33 年 3 月）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管の「とかちエコマエストロ」就任（継続）。
- ・ 8 月 7 日、NPO28 サポートセンター主催「伝馬船レース in 帯広」に参加（報道 1）
- ・ 北海道開発局が主管する札内川懇談会の委員に就任（継続）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管の「川づくりワーキング」座長に就任（継続、写真 14）。
- ・ 「かわまちづくり」に関する勉強会を 2 回実施した（継続）。
- ・ 帯水協が所有する備品等の一覧表を作製して関係機関や地域の方々へ周知した。なお、現状復帰を原則として貸し出しを行うことで備品等の有効活用を図った（継続）。ライフベスト；子供用 2 回、同大人用 2 回、子供用ヘルメット 2 回、折畳テーブル 4 回、簡易ベンチ 4 回、テント 4 回を貸し出した。

4. 総括

今年度も帯広川の水辺を、学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用することによって、住民が地域の自然の豊かさを認識し、さらに世代間の交流やご近所付き合いの活発化などにより共助を推進することを目指して活動を行った。自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個人の日常行動が大きく影響することを理解して、自助、共助の精神および行動を活性化させることとした。

平成 24 年度から実施している帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備を引き続き行った。十数年間放置され荒れ放題の水辺を、自助、共助によって安全で快い広場とした。すなわち、散策路、川面への接近路の雑草処理、釣り場の整備・安全確保を弊協議会が自主的、主体的に企画・実施した。また、環境整備にあつたては、地域住民が集う公園などの公共施設等を住民自ら整備・活用することで、地域社会の活性化や世代間交流の促進を図ることを目的とした「エコな地域づくりの会」との連携を深化させて、河川敷公園（西 21 条南 2 丁目）付近から排出された刈草や枯葉等を堆肥化した。帯広川およびその周辺の環境保全活動は計画通りに実施した。なお、これらの取り組みは、今年度、北海道市民団体協働の川づくり事業に認定された。

帯広川で採取した生き物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上することにつながり、さらに地域の豊かな自然を体感して郷土愛が育まれるばかりではなく、食に関わる先人の知恵を学ぶ好機と捉えている。今年度は、ウチダザリガニ（駆除のために捕獲）に加えて、帯広川排出口付近で自生する蕎麦とセリを採取して安全性を確認後、子供を含む希望者で賞味した。その結果、賞味した方々は、駆除すべきウチダザリガニが美味しく、さらに蕎麦やセリも山奥で採取

したものに劣らず野趣豊かなであることに驚いていた。また、この地域に生息している駆除対象の生物であるウチダザリガニ、ブラウントラウト、虹鱒あるいはミンクは、全て食用等で移入したものであることを説明すると、子供ばかりではなく大人も驚嘆していた。このように身近な自然体験は、環境、エネルギー、経済などの現代社会が抱える諸問題を、食べるという本能的な行為から考える良い契機となるものと思われた。

学校教育支援において、帯広市立開西小学校では、1～5年生までの児童、教員が帯広川を訪れて水辺の体験学習を行った。児童は、帯広川で非日常的な体験を行い、川の危険性（深場がある、浅くとも流れが速い、水温が変化する等）や生き物の多様性（ザリガニ、ドジョウ、ウグイ、昆虫等の捕獲）について体感したと思われる。また、地域の自然は豊かであるが危険（蜂、蛇、ニセアカシア）が内在することも理解したものと思われる。教員からは、体験学習の授業全体を取り仕切り指導すること、きめ細かい子供への配慮、少人数での体験教育、安全確保の取り組み等に関して弊会へ謝意を示す多くの意見が聞かれた。

一昨年、帯広川体験学習の準備中の午前9時30分ごろに帯広川水面を泳黒蛇（種類は不明）が目撃され、大人も新鮮な驚きと興味を示した。例年、帯広川やその排出口で多数のオタマジャクシが目撃されるが成長した蛙が余り見られないことへの疑問が示され、蛇、鳥、キツネ、カワウソ/ミンク（帯広川取水口付近で複数回の目撃談有、種不明）あるいは鱒等による捕食、水辺から周辺への移動等の要因が考えられたが爬虫類に造詣の深い方がいないので今後も継続して目視による調査を行うこととした。

また、昨年8月中旬、帯広川排出口付近で魚類調査・雑草駆除を行った際、イラクサ（資料1）を素手で掴んでしまい、2～3日、痛痒に悩まされた。無知は恐ろしいと痛感した。手が発赤して痛いので、治療の方法を検索すると、この雑草は写真などからイラクサと推定でき、粘着テープで微細な棘を除き、薄いアルカリが効果的である、との記載に従い、アンモニア臭が特徴の虫刺され用の「キ〇〇ン」を塗布して、大事には至らなかった。

このように地域で長く生活している者にとっても地域の自然への理解は必ずしも十分とは思われない。弊会の事業は、地域の自然に対する興味を喚起することができ、さらに勉強心や郷土愛の向上に貢献したと思われる。児童の躰を含む教育は、家庭と学校との連携が必須である。しかし、過度な利便性や経済性の追求を背景とした核家族化の進展は、家庭内における世代間の役割分担や連携を稀有なものとしている。このような状況下、地域全体で子供を見守り自分自身も学ぶ生涯学習の実践が重要と思われる。

これまで弊協議会では、市民が帯広川流域全体を持続的に活用するために、帯広市の内閣府認定「環境モデル都市」計画の中に位置付けられる「かわまちづくり」協議会（仮称）が必要と考え、その設立のために「かわまちづくり」勉強会を行ってきた。帯広市を東西に横断する帯広川の流域全体を一体的に考えるための組織を民産学官の連携で立ち上げることを意図したが、数年前に帯広市が理解を示さないことから発展的に解散した。しかし、弊協議会を含む民間組織等との間では、以下の目標を共有して活動を継続している。①市の中心部から集積した住宅地である西部地区を繋ぐ遊歩道あるいはサイクリングロードとして帯広川堤防天端等を車道と完全に分離した形で活用する、これは②大火災や震災時の避難路および水害時の土嚢の設置あるいは貯蔵場所としても活用し得る。③日常の草刈、清掃などの点検・維持活動は、河畔の町内会等の地域主体で行い、あわせて水質の異常や危険箇所などを河川管理者へ通報することとし、さらに④河畔林は「帯広の森」計画の回廊部分として位置づけて市民の憩いの場として活用を図るものとする。これらを具体化するために今年はNP0、任意団体および河川管理者等との勉強会を2回行った。次年度は、種々の会合などで、この試案について議論を深めたい。

サケの人工孵化・飼育事業を引き続き実施した。この事業は一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会の後援で実現できた。ここに増殖事業協会に対して深甚なる謝意を表す。地域教育や生涯学習の重要性が叫ばれて久しいが、今回の事業は多様な専門性を有する方々や組織が連携して行った教育効果の非常に高い事業であった。十勝で暮らす方々がサケの生態や食材としての特性について意外なほどに知識が少なく、子供と共に大人が真剣に学んでいる姿が印象的であった。このように全ての参加者が共通の感動を同時に体験することは、世代間や参加者間の隔たりを超えて、相互認識の促進や信頼感の醸成に繋がり、ひいては安心・安全な地域づくりに貢献するものと考えられた。また、十勝の特産品であるサケやシシャモの生態、利用の歴史あるいは食材としての特性等を正しく理解、把握する方が増加することは、漁業や食産業ばかりではなく観光事業や情操教育にも貢献するものと考えられる。すなわち、海と川を行き来する生物の戦略、産卵後に個体の生涯を終えること、母川回帰や孵化した日を記憶して遡上すること等、不思議が一杯であり、人間の生涯と比較すれば多くの示唆に富んだ物語が生まれそうな予感がする。地域の特産加工食品や観光においては歴史に裏打ちされた非日常的な快い物語が、今、求められている。

弊協議会は設立7年目となり、日常の活動は安定的に実施できるようになってきた。しかし、事業遂行に当たっては、特に川での活動や支援において安全確保が最重要であり、事故がないよう努めた。また、多くの役員が居住する町内会と一小学校の校区の方々を主な対象として活動しているために、事業やその遂行が慣習化することを戒めている。

ホームページの活用や地元新聞社の協力による広報活動を積極的に行ったことから、今年度は音更川や札内川でのイベント、講演や川関連の懇談会、ワーキングに招待されるなど、十勝において弊協議会の認知度は一定程度向上したと思われる。弊協議会の活動は、十勝の自然が豊かであることを十勝の住民が改めて認識することや、さらに水辺の生涯学習を契機とした世代間交流や地域コミュニティの活性化に貢献したと自負している。なお、平成29年2月3日、公益財団法人河川財団から弊会の活動成果が優秀であることに対して表彰状（資料2）が贈られた。

このように、弊会が安定した組織運営と事業遂行が可能だったのは、運営委員を初めとして、ご協力を頂いた方々の絶大な支援の賜物と深謝している。また、河川管理を担う国土交通省北海道開発局および北海道十勝総合振興局には、日頃の河川活動に対して丁寧なご指導を頂いた。さらに公益財団法人河川財団および一般社団法人北海道土木協会から助成が得られたことにより事業の基盤を整備することができた。また、帯広信用金庫や十勝毎日新聞社を、はじめとする地域の企業、団体および個人から多大な支援を頂戴した。ここに記して深甚なる感謝の意を表す。なお、今後、弊協議会は、町内会などを含む民間団体、企業および行政機関等との連携強化を推進し、持続的な財務体質を構築して、若い人材の発掘・教育にも努力する所存である。先述の関係各位には、今後とも更なるご指導とご協力を賜りたくお願い申し上げる次第である。

表3.1

2016(平成28)年度 実施事業

20160401～20170331

月	日	曜日	事業等	参加者	場所等
4	1	金	サケ稚魚水槽水交換	2	開西小
	3	日	帯広川排出口付近視察・清掃	5	帯広川
	5	火	サケ稚魚水槽水交換	3	開西小
	9	土	サケ稚魚放流・清掃	17	開西小→帯広川 子供11、大人23名
	14	木	役員会	6	事務局
	20	水	アクア実行委員会(大谷短大主催)	4	大谷短大
	21	木	会計監査	8	西十号会館
5	1	日	帯広川視察	6	帯広川
	6	金	総会・講演会・懇談会	44	西十号会館
	8	日	全市一斉河川清掃	39	帯広川
	9	月	ウチダザリガニ対策打合せ会	5	事務局(ARC2名)
	9	月	挨拶(十勝毎日新聞社)	5	開西小
	14	土	クリーンウォークin札内川	5	札内川
	22	日	役員会	6	西十号会館
	27	金	NPO多自然ネット総会	48	アッパホテル(帯水協3名)
6	1	水	札内川懇談会(開発局主催)	34	とかち館(帯水協3名)
	5	日	帯広川排出口視察・清掃	11	帯広川
	11	土	役員会、帯広川水質調査(全国一斉調査)	7	西十号会館、帯広川
	23	木	体験学習等日程打合せ	5	開西小(帯水協2、ARC1名)
	26	日	帯広川清掃、排出口付近草刈	6	帯広川
7	1	火	帯広川清掃、排出口付近草刈	6	帯広川
	4	月	体験学習支援 開西小2年	66	帯広川
	6	水	体験学習支援 開西小1年	63	帯広川
	8	金	体験学習支援 開西小5年+JICA研修生	76	帯広川
	9	土	アクアソーシャルフェス	113	帯広川
	12	火	体験学習支援 帯広幼稚園ゆき組	45	帯広川
	13	水	体験学習支援 帯広幼稚園ほし組	49	帯広川
	14	木	体験学習支援 開西小4年	56	帯広川
	20	水	体験学習支援 開西小3年	67	帯広川
	20	水	川づくりワーキング打合せ	6	十勝総合振興局
	21	木	体験学習支援 つばさ保育園	44	帯広川
	23	土	役員会	7	西十号会館
	29	金	川づくりワーキング	28	十勝総合振興局(帯水協2名)
	30	土	帯広川清掃、排出口付近草刈	9	帯広川
	31	日	体験学習支援 相馬市児童	53	帯広川(星槎学園共催)
8	3	水	体験学習支援 西帯地区児童	75	帯広川(生涯学習推進委員会主催)
	5	金	特別講演会「帯広川氾濫! 避難訓練と対策」	43	西十号会館
	7	日	帯広川視察・整備(草刈)	8	帯広川
	7	日	伝馬船レース大会in 帯広川	4	札内川(NPO28サポートセンター主催)
	8	月	役員会	4	事務局
	20	土	帯広川視察・整備(清掃)	6	帯広川
	24	水	役員会	6	西十号会館
	27	土	体験学習支援 トムテ(雨天中止)	6	帯広川
	28	日	役員懇談会	13	西十号会館

表3.1

9	4	日	役員会	6	事務局
	11	日	帯広川視察・整備（草刈）	8	帯広川
	12	月	サケ人工孵化体験会の打合せ	7	開西小（帯水協3、ARC2名）
	15	木	サケ人工孵化体験会の打合せ	2	さけ・ます増殖協会
	16	金	川づくりワーキング	27	十勝振興局（帯水協2名）
	13	日	体験学習支援反省会	21	帯広川・事務局
	18	金	開西小サケ飼育用水槽設置	4	開西小
	23	水	役員会	5	事務局
	29	火	開西小水槽整備（サケ飼育用）	3	開西小
	30	水	帯広川排出口視察・清掃	4	帯広川
10	2	日	役員会	4	事務局
	4	火	帯広川視察・整備（草刈）	7	帯広川
	20	木	開西小水槽整備（サケ受精卵受入準備）	3	開西小
	22	土	サケ人工孵化体験会	23	開西小（児童9、大人14名）
	28	金	役員会	4	事務局
11	6	日	帯広川排出口視察・整備（清掃）	5	帯広川
	9	水	サケ受精卵視察	3	開西小
	11	金	役員会	6	西十号会館
	18	金	拡大役員会	9	西十号会館
	25	金	特別講演会（8月開催につき中止）		
12	6	日	役員会	6	西十号会館
	18	日	拡大役員会・懇談会	21	事務局、壺八
	24	土	十勝多自然ネットとの打ち合わせ	4	事務局
	27	火	開西小サケ受精卵視察	3	開西小
1	8	日	拡大役員会	18	西十号会館
	10	火	十勝毎日新聞社交礼会	2	北海道ホテル
	20	金	役員会	3	事務局
	22	日	帯広川視察	3	帯広川
	24	月	開西小サケ受精卵視察	2	開西小
	27	金	十勝多自然ネットとの打ち合わせ	3	ARC本社
2	4	土	役員会	3	事務局
	6	月	帯広川視察	2	帯広川
	11	土	役員会	6	西十号会館
	13	月	開西小サケ仔魚視察	5	開西小
	14	火	川づくりワーキング打合せ	8	十勝総合振興局
	22	水	川づくりワーキング	26	十勝総合振興局（帯水協2名）
3	1	水	開西小サケ仔魚視察	3	開西小
	3	金	役員会	3	事務局
	7	火	札内川懇談会	31	とかち館（帯水協2名）
	14	火	開西小サケ仔魚視察	3	開西小
	22	水	帯広川視察	6	帯広川
	26	日	役員会議	7	西十号会館

写真1. サケ稚魚放流



写真2. 開西小学校2年生の水辺体験学習



写真3. 開西小学校1年生の水辺体験学習



写真4. 開西小学校5年生とJICA研修生との合同水辺体験学習



写真5. 開西小学校4年生の水辺体験学習



写真6. 開西小学校3年生の水辺体験学習 右: 矢印 最下流における安全確保の様子



写真7. つばさ保育所の水辺体験学習



写真8. 相馬市児童の水辺体験学習



写真9. 四地区(小学校区)児童の水辺体験学習



写真10. サケ人人工受精体験会



写真11. 帯広川取水口の水面 (左:4/20 13時 清澄な川水 右:6/18 5時 濁り、異臭を感知)

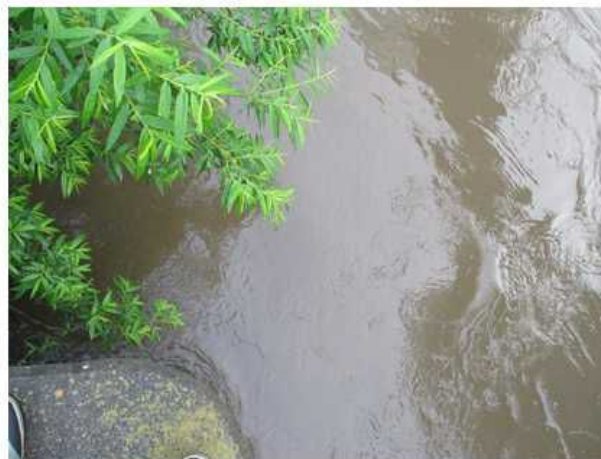


写真13. 総会(左)・特別講演会(右)



写真12 帯広川に生息する魚類



2016 (H28) 年4月～11月の間に
帯広川(ドライフライ)で釣れた魚。

- ① 虹鱒
- ② うぐい
- ③ ブラウントラウト
- ④ やまめ



写真14. 川づくりワーキング



資料1

イラクサ (Nettle, *Urtica thunbergiana*): イラクサ科イラクサ属の多年生植物。草丈30～50cm。茎は四角く、葉と茎に刺毛がある。6月から9月にかけて円錐形に緑色の花をつける。ヨーロッパや北米の近縁種セイヨウイラクサ (*Urtica dioica*, Stinging nettle) も「イラクサ」と称させることが多いが、日本の野生イラクサとは別種である。若芽が山菜として利用されるミヤマイラクサも、「イラクサ」と称されることがあるが、ミヤマイラクサはムカゴイラクサ属 (*Laportea*) で別属である。薬用部分は全草。夏から秋にかけて全草を採り、日干しして乾燥させる。近年ではセイヨウイラクサの葉を乾燥したものが「ネトル茶」などとして流通し、「花粉症の体質改善」などと謳われている。ヨーロッパのセイヨウイラクサは料理・薬用ハーブとして用いられている。ロシアではスープの具としても用いられる。皮からは、滑らかで白い色合いを持った繊維が取れる。アイヌ民族は、イラクサの繊維から織った布や着物をレタルペ(白いもの)と呼んで珍重していた。(https://ja.wikipedia.org/)



帯広川排出口付近で自生していたイラクサを、無知故に素手で掴んでしまった。直ぐにチクチクした痛みを感じ、その後、1～3日間、発赤、腫れ、痛痒が続いた。皮の手袋を装着して駆除した。



イラクサは、刺草や荨麻と称し、いわゆる荨麻疹の語源となる植物。



北海道通信

平成28年 8月9日 【火曜日】

伝馬船レース大会を開催
幅広い世代が川に親しむ

帯広 NPO28サポートセンター

十六年からは明治中教育
當局を潰壊し、開闢の一
環として、言語學部と學
ぶ必要を説き、努力を促
すべく、これらの活動が著
眼されて、この中本邦の
事情を考慮してゐた。

（佐野好一）又は、今日
初めと雖もたのみの、既得
のてふ小さな木を平土に
おろし、のんびり用ひ
いふ多きながら、田に類し
て、この人々に好まれる。

メンバーとして、井岡山を中心とする地域の活性化や岡山文化の継承などの活動を行っている。

リンダ十勝が主力、
標榜のNPOがサポートセ
ンタ―は、札幌川越会館の

製の水ト多川に流し、甲
を多川つた。十勝谷自然エ
ムトや無田川、十勝川中
流の十勝川に流す。このト

伝馬船に、ス大傘、烏帽子、川を渡り、たゞ雪裏に、約九十八人が参り、小笠左木

【巻込】 贈り物に
サトウとシスターは七日

伝馬船レ
幅広い世
帯広 NPO

代が川

会を開催
に親しむ
センター

$\mathbf{C} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$	$\mathbf{D} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$
--	--

[illegible]

て、三つ葉のよう
なものがあつた。

田舎に生きたら、
家族四人で参加し
た田舎は「川好き
の」でいっぱい

[illegible]

守りながら、川沿いを歩いた。小学生の親子虎重は一すくく楽し

ちをはじめ、家族連れや商店街の賑わいなどを感じ、
製品開発を日進一日、前进了たどる不変の歩みを見

この日、足城のまゝもた



報道2.



雌のサケから卵を取り出す児童たち

サケの人工授精に挑戦 開西小 (2016/11/01 10:31)

帯広開西小学校(菅原優博校長、児童263人)で10月22日、サケの人工ふ化の体験会が行われた。帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長)が主催。子供たちに命や地域の大切さを学んでもらおうと開催している。

3～5年生10人が参加。十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会から供与された3匹のサケを使い、さけ・ます教育コーディネーターの石垣章さんから成長の仕組みなどを教わった後、人工授精に挑戦。雌のサケから卵を取り出し、約2500個の卵を受精させた。

受精卵は同校玄関の水槽に移され、児童が成長を観察し、来年4～5月に帯広川に稚魚を放流する。富田葉月さん(3年)は「登校して毎朝、水槽の中で成長していく姿を見るのが楽しみ」と話していた。(長尾悦郎通信員、十勝毎日新聞電子版 <http://kachimai.jp/article/index.php?no=367975>)

報道3.

十勝毎日新聞

2016年(平成28年)8月6日

水害避難援助の手順確認

西21新興町内会 帯広川の増水想定

帯広市内の西21新興町内会(柏谷和夫会長)で5日、水害避難訓練が行われた。近々を流れる帯広川の大雨による増水を想定し、地域住民が避難のタイミングや要援護者の避難援助の手順などを確認した。



訓練では同会議が開発した水位上昇の警戒メールを一時避難所の西十号会館に活用。帯広川の水位が氾濫。集まり、佐藤会長を本部長とする対策会議を開催。要援護者2人を実際に車で迎えに行き、全員で避難所の開西小学校に移転開始するまでの手順を確認した。

警戒メールを開発したアークコーポレーション(帯広)も住民は絶対氾濫しないと思っていた。決して侮ってはいけない。水害は事前避難が大事と頭に入れておきたい」と話していた。(小林祐己)

「帯広川は水位が上がるスピードが速いので1時間で避難しないと間に合わない」と注意点を挙げ、住民からは「車の調達など歩行困難者の移送手段を確立しなければ」「近くのコンビニなどの提携も必要」などの意見が出た。

帯広開発建設部治水課の河合崇上席治水専門官は「地域の水害のリスクを子どもや孫にもしっかり伝えて、帯広建設管理部の玉置淳二治水課長は「帯広川は時間雨量30、40mmであれば危険度が高い。情報を集め、危機意識を持って避難判断を」と呼び掛けた。柏谷会長は「(2015年に氾濫した茨城県)の鬼怒川も住民は絶対氾濫しないと思っていた。決して侮ってはいけない。水害は事前避難が大事と頭に入れておきたい」と話していた。(小林祐己)

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 備品等一覧 20170331

備 品 等	数	備 品 等	数
ウェダー(胴長靴)	12	水槽	2
ハイウェダー	7	同上用ポンプ等	2式
ライフベスト 大人用	15	ポリタンク(20L,10L)	3
ライフベスト 子供用	30	サケ人工孵化器具	1式
同上用 キャリーバック	3	冷却装置	1
ヘルメット(子供用)	30	エンジン刈払い機	2
ドライスーツ	1	同上用安全装置(かるべえ)	1
バスタオル	12	安全フェースマスク	2
救急セット	1	ガソリン携行缶 5L	2
ブルーシート	2	ガソリン携行缶 20L	2
アルミテーブル	5	ヘルメット(工事用)	5
ポップアップテント	小2、中1	安全靴	5
ポータブル水洗トイレ	1	草刈サロペット	2
デジタルカメラ	1	一輪車・台車	各1
プリンター	1	カケヤ	1
ハンドマイク	2	鉋(ナタ)	1
透視度計	2	鍬(クワ)	2
ストップウォッチ	3	鎌(カマ)	5
棒状温度計(金属ケース付)	3	フォーク	3
実体顕微鏡	1	ショベル(穴あき)	2
覗きメガネ	10	鉋鋸(ナタノコ)	3
虫メガネ	25	剪定鋏	1
バケツ	20	刈込鋏(ハサミ)	2
縞見ルーペ	2	砥石	2
バット(白)	8	シャープナー	2
ポリ手付ビーカー	3	ヤスリ	1
網(大、小)	25	ツールボックス	1
ピンセット先曲	35	安全ロープ	3
パックテスト用専用カップ	20		
セイナスコンテナ	8	安全管理ハンドブック	1
ポリコンテナ	3	自然体験活動指導者ハンドブック	1
ポリカゴ(深・浅型)	5	まさかの時の生き残り塾	1
		アウトドアで遊ぶ学ぶ	1

ご入用の物品等がございましたら、いつでもお貸しますので事務局へお尋ね下さい。